

## 南山田小学校の歴史

南山田小学校は、明治六年に金戸村専徳寺庫裏を利用して創立したのが始まりだが、明治九年に野口村に専致小学校を新設した。その後、明治二十三年野口小学校を示野小学校として、野田・金戸・金戸新・野口新を学区とした。明治二十七年からは示野尋常小学校と改称した。

また是安には明治六年に信末・是安・梅井新・竹林新を学区とした是安小学校が創立された。明治八年に大窪村の啓発小学校と合併されたが、明治二八年からは安尋常小学校と改称した。

これらの両校が大正八年に合併して金戸に南山田尋常小学校が創立されたのです。

この一校合併には是安・示野両地区は、是安は野田の神明宮付近に建てたいと主張し、示野は野口にと相譲らず反目し合う状態が続いた。

一方南北二里半にもまたがる細長い南山田には二校が必要だと南・北両端の地区民が唱えはじめ三つ巴の争いとなった。当時の学校職員は合併一校説

だったので、南北二校説の親達は先生に反発し、子供に授業をボイコットすべく登校拒否などをさせた。

そこで大正六年郡長高松覚太郎に一任することになり、この結果合併一校とし場所も金戸に決定された。



南山田役場

明治五年（一八七二）に旧来から存在していた肝煎・庄屋などの村役が廃止された。明治七年には区会所、明治九年には区務所、明治十一年には砺波郡役所、明治十二年には地方自治制度が整い南山田地区の戸長役場が金戸（専徳寺内）に設置された。明治二二年には憲法発布や市町村制が実施され南山田村役場が専徳寺内に設置し事務を開始した。同年十二月源元米光の南

に間口三間奥行五間の平屋を新築し移転した。明治三四年十月には奥行一間半間口二間半の平屋を西部に増築した。しかるに時勢の進歩に伴い役場事務分量が増加し場所も便悪しく、役場位置の変更の声が台頭したので、大正八年十二月に就任した石村正友村長は城端駅より南方に縦貫する県道と東太美村より南山田村を横貫し城端町に通じる道路と交差する地点（金戸二四八七番地野田用水東）に移転することを決めた。

庁舎は示野尋常小学校と是安尋常小学校が統合された示野校舎を改造して利用された。元の役場庁舎も改造されて南山田巡査駐在所となった。しかれども明治四三年建設の三十年の年月を経過した庁舎は南風の強風に対する耐久力を失い、年々傾斜の度合いを加え危険性が増し、昭和二年の田嶋茂村長就任するや新庁舎を計画し、新築総経費三〇〇万円の庁舎が昭和二五年四月にようやく竣工した。

田嶋茂村長の思案による庁舎は、九間七間、柱立約三〇尺の高さの大建物にて、新時代式の頗る堅牢なものであった。また庁舎上階の眺めは素晴らしく東方連峰は山水画を描きたる屏風を立ち並べたる如くに見え、城端の西端丘陵の地には善徳寺・水月公園・大谷

廟社・城端神明社・城南橋等の名所旧跡相並んで吾に対峙する。西は医王の山が南に袴越山が殊の外麗しく、北は南砺地方が一望できる絶景の地に建つものであつた。



### 移転し続けた駐在所

明治十九年に駐在所が上原村大浦與市方に三ヶ月ばかり、次ぎに塔尾村中島小四郎方の一間を借りて始まり塔尾駐在所と呼んだ。管轄区域は金戸・野田・野口・上見・上原・塔尾・千福新・経塚野・示野・田尻・大西新・国広新・金戸新・大宮野新の十四村であつた。明治二十年には警備上支障をきたすとして金戸村中川甚之丞に移転した。明治二二年には町村制実施に伴い野口村十字路に間口三間・奥行四間半の平屋を新築し民家でない単独の駐在所として業務を開始した。是安・信末・西原の三村を管轄とし南山田駐在所と呼ん

だ。明治二四に野口は南山田村の中央ではないので再び移転問題が起こり、野田村神社前十字路に移転することになつた。しかし駐在所で北村巡查が家庭問題で自殺したために後継巡查が駐在を拒み、一時本署直轄勤務となつたが、明治二六年に再び野口に移転した。

大正八年南北の小学校が合併されたので駐在所を役場跡の金戸村八三二番地に間口三間・奥行六間半の平屋を新築した。昭和五年には城端署管内最初の駐在電話が架設された。昭和七年また奇つ怪な出来事から移転問題が起きた。それは池水が居住者の健康を損なう病気になる者が多く、三巡查が病気となりその内の小林巡查が昭和六年十一月二五日に死亡した。昭和七年六月に金戸二一三八番地に再移転するという歴史があつた。

### J A なんと農業組合

大正二年九月二三日に設立認可を得て事務所を金戸一〇九九番地（役場の一角）に開設した。当初は組合員は組合の何たるかを解せず徒に不平を唱え、組合幹部が私服を肥やすのではと疑いが持たれた。商人も組合を敵視して種々に反抗的行動ほ試み悪宣伝を成す者ありて、経営幹部の苦勞は並々な

らぬものがあつた。大正九年に業務繁賑におもむき金戸では不便により中越線城端停車場の付近（野田一三六九番地）に新築移転した。

昭和四十四年四月南山田・北野・菺谷・大鋸屋の四農協が合併し南砺農業組合が正組合員数一四七二人（一三〇八戸）、準組合員数一一一人（一一〇戸）、貯金高二〇億八四〇〇万円で発足した。敷地を金戸の南山田小学校跡地に建設し、倉庫・機械センター・給油所が整備された。昭和四六年にはカントリーエレベーターが京塚の墓所に隣接して建設。昭和六一年には南砺農協会館が、金戸の農業基盤整備により供出されたグラウンドに建設し本所も移転し再び金戸に戻つた。

平成一三年にはなんと農協が南砺・城端信用・井口・平・上平の五農協が合併して発足した。平成一三年度末の正組合員数二五二一人（二〇八七戸）、準組合員数一六八三人（一四七四戸）、貯金高五九五億六一九五万円。

この長い歴史の間に松田昭夫・中仙道俊孝・源元光夫などが理事や常務となり農協事業に貢献した。

金戸は明治から今日にいたるまで行政・経済・警察の中心地としてあり多くの土地を提供してきた先祖の苦勞があつた。